

令和3年度 さいたま市立指扇北小学校 自己評価書

校長 加納 浩美 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

(1) 凡事徹底～当たり前のことを当たり前に行える児童の育成～

○「元気なあいさつ」「美しい歌声」「くつをそろえる」の継続指導

(2) 確かな学力の育成(かしこく)、学習指導の工夫・改善と充実(かしこく・たくましく)

○「読む力、書く力、考える力」「授業規律の確立」等、基礎・基本の重視

○GIGAスクール構想に基づいたICT教育の充実 ○国語科の研修を生かし指導法の工夫・改善の推進

(3) コミュニケーション力の育成(あかるく)

○場に応じた的確な言葉遣いができる児童の育成

○なかよし教室の活動など縦割り活動を充実させ、思いやりのある児童を育成

○グローバル・スタディ及び人間関係プログラムの充実

(4) 「安全・安心」な教育環境の整備と開かれた学校づくり

○教育環境を、業務改善における「安心・安全」の視点から見直す

○情報収集体制の充実によるいじめの早期発見・生徒指導委員会を中心とした組織的な早期対応

○コミュニティ・スクールを中心としたPTAや地域、関係諸機関との連携

○前期学校運営評価の活用、企画委員会に「業務改善」を入れる等、業務改善・働き方改革を推進

(5) 特別支援教育、教育相談体制の充実

○教育相談における校内支援体制の整備・充実及びさわ相、SC、SSWの効果的な活用

○特別支援学級「にじいろ」の円滑な運営及び弾力的な運用の推進

2 評価結果について

(1) あいさつについて、教職員は90%以上が肯定的回答であるが、保護者、児童は、85%前後となっている。教職員や保護者の一部から、「進んであいさつをする児童が減少している」「一部の教職員についてあいさつが少ない」との声もあり、課題となっている。

(2) 学校の新しい生活様式に基づいた教育課程の再編成、指導の工夫改善と学力向上の取組、学習規律の3点において、95%程度の教員が肯定的な回答をしている。また、「授業はよくわかる」「分かりやすく教えている」について児童及び保護者の90%程度が肯定的な回答をしている。タブレット端末を使った授業改善が進んでいることにより、子どもたちの学習意欲が高まってきていることが考えられる。

(3) なかよし教室を実施し、「上級生が下級生に対し、何かを教える」という活動を通して、上級生の下級生に対する思いやりや下級生の上級生に対する尊敬の気持ちを醸成することができたと考える。グローバル・スタディーでは、ICTを積極的に活用し、児童の興味関心を高め、指導の効率化や言語活動の充実を図ることができている。

(4) いじめ防止の項目では、児童・教職員とも90%以上は肯定的な回答である。しかし、保護者の約20%は、「わからない」と回答している。学校における未然防止の取組が十分周知できていないからと考える。前期学校運営評価を活用して、教育環境の整備が進んでいること、ICTを活用した業務改善により、教職員の業務負担の軽減も進んでいることにより、教職員のほとんどが肯定的な回答をしている。

(5) 教育相談についての肯定的な回答の割合が、教職員100%、保護者・児童とも約80%となっている。特に児童の割合は79.9%と80%を下回っている。「児童のコミュニケーション力」の他、教員の言葉遣いや保護者からの相談に対する教員の対応にも課題が見られる。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・積極的なあいさつが児童から進んでできるように、児童会によるあいさつ運動の他、教職員も休み時間に廊下であいさつ運動を行うなど、教職員が率先してあいさつを行うようにする。
- ・「児童、保護者の気持ちに寄り添う」を合言葉に、児童が抱える課題や問題の背景を理解しながら、教育相談的な態度や技法で児童、保護者に接し、信頼関係に立つ生徒指導を一層推進する。
- ・なかよし教室など特別活動をはじめ、様々な教育活動に児童が自己決定できる機会を設け、児童の主体性やコミュニケーション力を高めていくようにする。
- ・コロナ禍における本校の教育活動の在り方について、中長期的、弾力的に検討を行い、行事の精選や適切な時期に行事を行うことによる行事の組み合わせの適正化を今後も図っていく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。